

「えっちじゃないなら気持ちよくなんてないよね？ほら、言ってみて？『私は青木さんにおっぱい揉まれても気持ち良くなんてなりません』って」

「……………」

杏奈ちゃんは一瞬口籠ったが、すぐに言い放った。

「私は青木さんに…………っ♡…………！お、おっぱいを揉まれても♡き、気持ちいいなんて思いません♡」

「本当かなあ？」

俺は杏奈ちゃんの乳首を指先でくりくりと弄った。

「あんっ♡う、うそ、嘘ですう♡気持ちいい♡気持ちいいですう♡」

うおお杏奈ちゃん陥落はっっっや。まじチョロすぎ。可愛いけど大丈夫？俺みたいない悪い奴に騙されない？

…と思ったけど、ピチピチスパッツ越しにうっかり濡れてるのがわかったので相当感じてたの我慢してたみたい。

「杏奈ちゃんここぐしょぐしょじゃん。やっぱりえっちなんだねえ」

「ち、違…………！それは汗です！青木さんの手が冷たいから！」

「ふうん？」